

内容 : 最先端研究 夢の30課題「宇宙の設計図」全容解明
媒体名 : 読売新聞 夕刊
年月日 : 2009年10月8日(木) 11面

最先端研究 夢の30課題

「総額2700億円」とうたわれた最先端研究開発支援プログラムが、鳩山政権によって大幅に変更される公算となった。1人あたりの研究費が激減する見通しで、9月に採択済みだった30人の研究課題への打撃が懸念される。いずれも、科学技術立国の先導役として選ばれただけに、担う期待は大きいものばかり。30課題とは、どのようなものなのか。夢あふれる研究の一端を紹介する。

● 開発支援プログラム

東 京大数物連携宇宙研究機構は、「宇宙の始まりと終わりの姿を解き明かす」という壮大な計画に着手する。宇宙は、137億年前に誕生した。初期の宇宙には、物質と

「宇宙の設計図」全容解明

エネルギーが詰まっていたが、なぜか均一でなく、濃淡があった。それが、その後の宇宙を形作る「設計図」となった。

「設計図の全容を、今後6、7年で解明します」と、同機構の村山斉機構長は語る。カギを握るのは、宇宙の物質・エネルギーのうち22%を占めるといわれる「暗黒物質」だ。その分布に沿って原子が集まり、やがて星や銀河に進化したという。

しかし、暗黒物質は光を出さず、観測が難しい。プロジェクトでは、すばる望遠鏡(米ハワイ島)から見える数億個の銀河すべてを観測する。その中で、直進せずに奇妙に曲がっている光を探す。光が地球へ届くまでの間に暗黒物質があつて、その重力で曲げられた可能性が高いからだ。

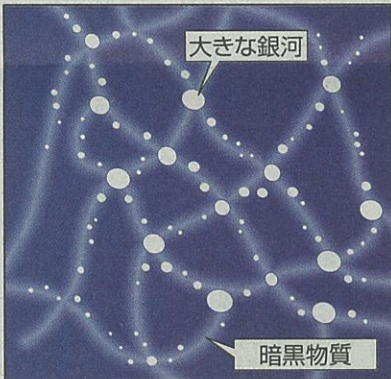
宇宙の観測は、遠方を見るほど、過去へさかのぼる。様々な時期ごとの「設計図」、つまり暗黒物質の3次元分布を描くのが目標だ。そのためには、最も速いものでは100億光年かな

たの銀河からの微弱な光を、高い精度で分析する必要がある。画素数9億、重さ4トという巨大なデジタルカメラと、超高性能の分光器を新たに開発し、すばる望遠鏡に取り付ける。

一方、同じ観測データを使って、「宇宙の終わり」の予測にも挑む。宇宙は膨張しているが、今後も無限に大きくなり続けるのか、ある程度膨らんだところで安定するのか。

宇宙には、銀河が多い場所と少ない場所がある。多い場所同士の間隔は一定で、約5億光年

5億光年間隔



暗黒物質の網目に沿って原子が集まり、銀河ができる様子(想像図)。大きな銀河は、網目の交わる場所に集まっている

だ。これを物差しに使えば、その場所が地球からどれだけ遠くにあるかが分かる。光の色を分析すると、その銀河が地球から遠ざかる速度、つまり宇宙の膨

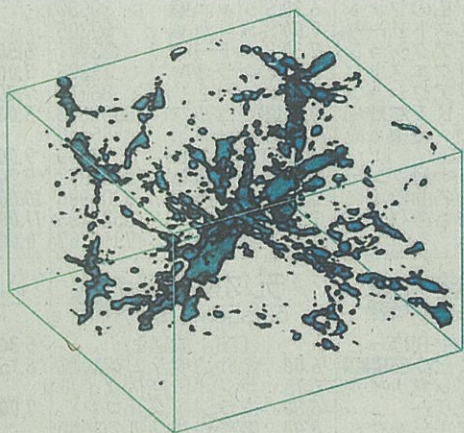
張の速度が分かるので、過去から現在までの膨張速度の変化を調べ、今後の予測につなげる。村山機構長は「予算が削られれば、宇宙の膨張についての研究に支障が出る。大きな成果が期待できることを理解してほしい」と訴える。(本間雅江)

最先端研究開発支援プログラム 当初は「30人に30億~150億円ずつ」という空前の巨額研究費として、国の2009年度補正予算に2700億円が盛り込まれた。鳩山政権は、総額を2000億円に減らし、配分先は大幅に増やす方針。期間は3~5年。基金にしてあり、年度をまたいで使える。

選出された研究者と課題

合原 一幸 (東京大)	複雑系数理モデル
審良 静男 (大阪大)	免疫の全容解明と制御
安達千波矢 (九州大)	有機ELデバイス
荒川 泰彦 (東京大)	光科学・電子工学の融合
江刺 正喜 (東北大)	半導体集積回路
大野 英男 (東北大)	電子スピン利用素子
岡野 光夫 (東京女子医大)	再生医療の産業化
岡野 栄之 (慶応大)	脳の高次機能解明
片岡 一則 (東京大)	超微細技術の医療応用
川合 知二 (大阪大)	病原体1個を高速識別
喜連川 優 (東京大)	高速データベース
木本 恒暢 (京都大)	炭化ケイ素半導体素子
栗原 優 (東レ)	省エネ淡水化システム
小池 康博 (慶応大)	樹脂製光ファイバー
児玉 龍彦 (東京大)	がんの抗体医薬治療
山海 嘉之 (筑波大)	高齢者等の支援技術
白土 博樹 (北海道大)	放射線治療装置
瀬川 浩司 (東京大)	有機系太陽電池
田中 耕一 (島津製作所)	次世代質量分析システム
十倉 好紀 (東京大)	強相関量子科学
外村 彰 (日立製作所)	高性能の電子顕微鏡
永井 良三 (東京大)	がんと心臓病の撲滅
中須賀真一 (東京大)	超小型衛星
細野 秀雄 (東京工業大)	鉄系超電導物質
水野 哲孝 (東京大)	高性能の蓄電池
村山 斉 (東京大)	宇宙の起源と未来
柳沢 正史 (テキサス大)	精神活動の分子的理解
山中 伸弥 (京都大)	iPS細胞による再生医療
山本 喜久 (国立情報学研)	量子情報処理技術
横山 直樹 (富士通研究所)	電子素子、機器の節電

撮影地 東伊豆・八幡野沿岸



宇宙の一部について、衛星観測を基に計算した暗黒物質の分布。1辺が1億光年(東大数物連携宇宙研究機構の吉田直紀氏提供)

サイエンス